

がんアドボカシー・アンケート
2011

日本医療政策機構 市民医療協議会
がん政策情報センター

はじめに

日本医療政策機構 市民医療協議会 がん政策情報センターは、患者さんやご家族が実際に行っているアドボカシー（提言）活動の現状と自己意識、患者アドボカシーに対する他の立場からの評価などについて聞くために、「がんアドボカシー・アンケート」を実施しました（実施概要は23ページをご参照ください）。アンケート結果から、患者アドボカシーが重要であると考えられていることが示されました。また、医療提供者が行うアドボカシーなど、さまざまな立場で行うアドボカシーの内容も明らかになりました。

目次

患者・家族から見た患者アドボカシー	2
他ステークホルダーから見た患者アドボカシー	3
がん政策で重要な役割を担う患者・家族	5
がん政策における医療提供者の活動と議員の活動の実際	6
患者アドボカシー、他ステークホルダーとの協働が必要	10
単純集計表	11
がんアドボカシー・アンケート 概要	23

患者・家族から見た患者アドボカシー

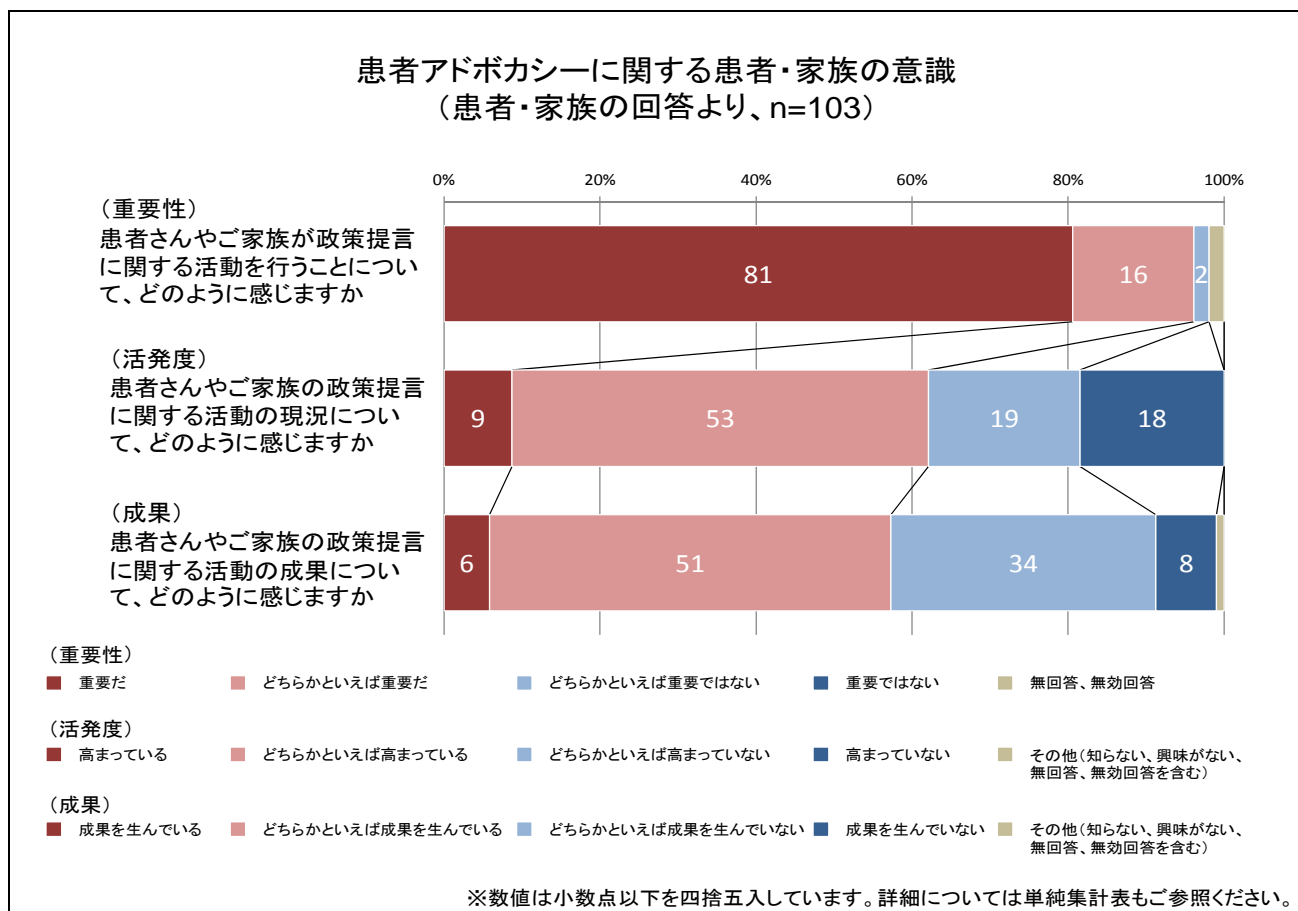
アドボカシーとは、ものごとを決める過程において主張や提言をすること（提言活動）を指します。今回の「がんアドボカシー・アンケート」の対象は、①患者・家族、②国会議員・都道府県議会議員、③都道府県庁がん対策担当者、④医療提供者、といったさまざまな立場の関係者（ステークホルダー）です。回答数は、①患者・家族：103件、②国会議員・都道府県議会議員：89件、③都道府県庁がん対策担当者：45件、④医療提供者：263件でした。アンケートの結果から、がんアドボカシーについて考察します。

患者アドボカシー活動について、患者さんやご家族自身はどのように考えているのでしょうか。「患者アドボカシーの重要性」について聞いたところ、「重要だ」あるいは「どちらかといえば重要だ」と回答した人が97%に上りました（図1）。

「患者アドボカシーの活発度」について聞いたところ、「高まっている」「どちらかといえば高まっている」と回答の方が合わせて62%。「患者アドボカシーの成果」については、「成果を生んでいる」「どちらかといえば成果を生んでいる」と回答の方が合わせて57%でした。

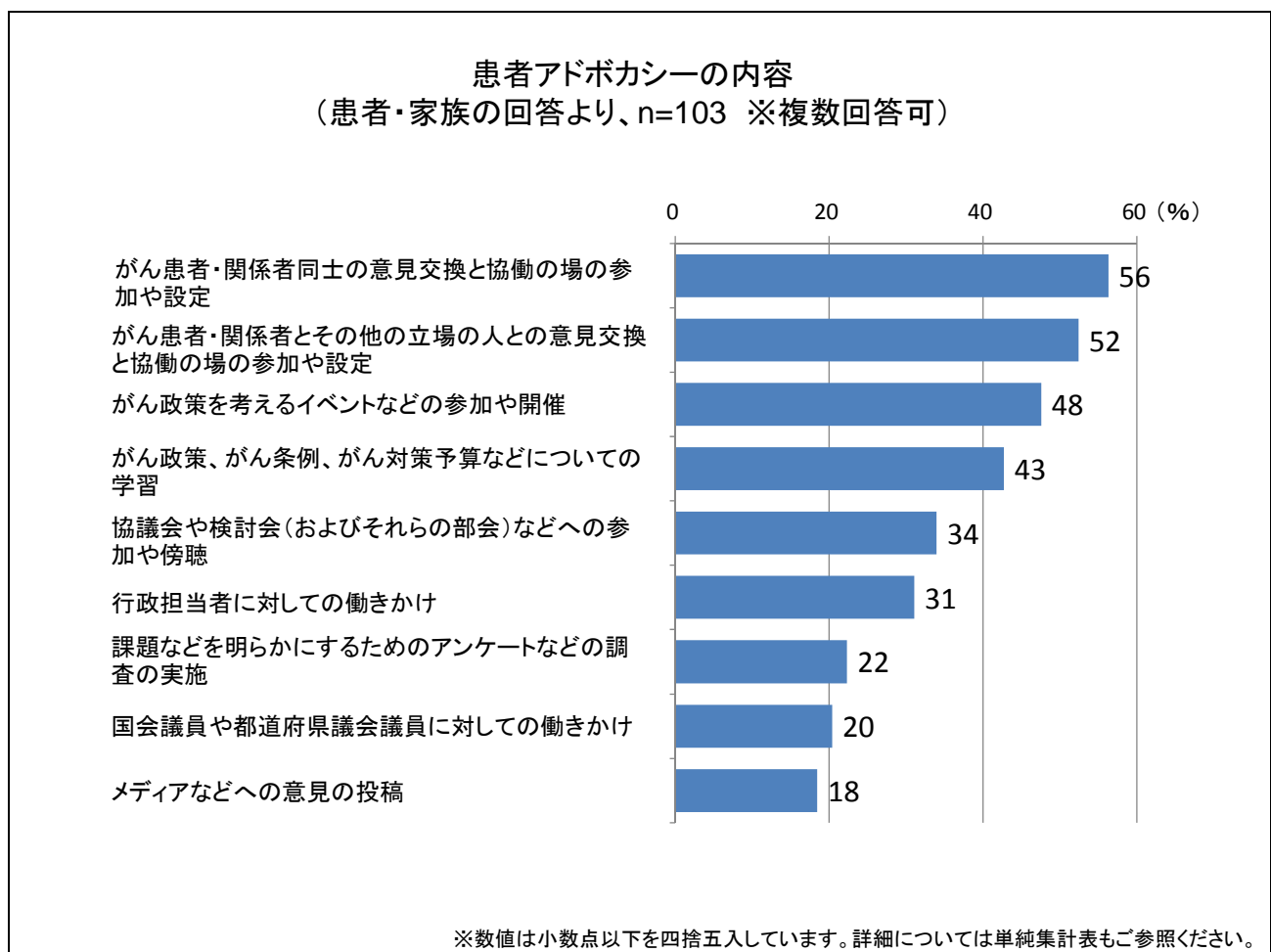
「重要性」についてはほとんどの回答者が認識していますが、「活発度」や「成果」については過半数が認めているものの、重要性についての認識にはまだ追いついていません。

図1 患者アドボカシーに関する患者・家族の意識



「患者アドボカシー活動の内容」について聞いたところ、最も多く回答があったのは「がん患者・関係者同士の意見交換」(56%)、次いで「がん患者・関係者とその他の立場の人との意見交換」(52%)、「がん政策を考えるイベントなどの参加や開催」(48%)でした。一方で、行政担当者や議員への働きかけや、課題を明らかにするためのアンケート調査などの活動については、比較的回答数が低い結果となりました(図2)。がん患者・関係者同士の協働やイベントなどの活動は高まっていますが、政策立案者との直接的なコミュニケーションはまだあまり行われていないことがうかがえます。効果の高い活動が何かを考えてから、それが未実施であれば活動計画に盛り込んで実行するという発想も大切かも知れません。

図2 患者アドボカシーの内容



他ステークホルダーから見た患者アドボカシー

では、国会議員・都道府県議会議員、都道府県庁がん対策担当者、医療提供者の患者アドボカシーに対する意識はどうでしょうか。

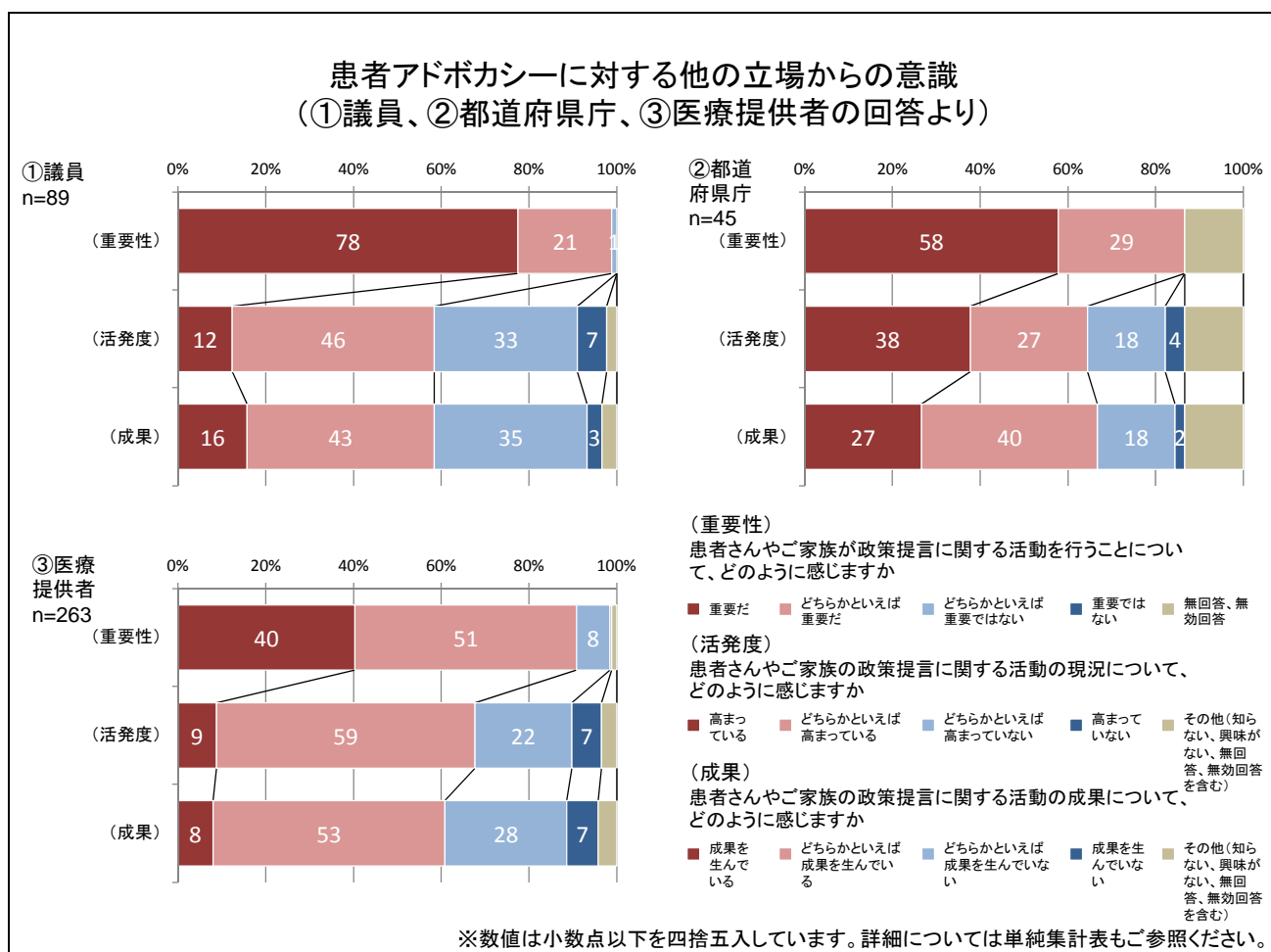
「患者アドボカシーの重要性」について、「重要だ」あるいは「どちらかといえば重要だ」と回答した人は国会議員・都道府県議会議員では実に99%という結果になりました。都道府県庁がん対策担当者回答でも87%、医療提供者でも91%にのびりました。3つの立場いずれからでも、その重要性についての認識が非常に高いという結果が示されています（図3）。

「患者アドボカシーの活発度」については、国会議員・都道府県議会議員では「高まっている」「どちらかといえば高まっている」と回答した人が合わせて58%、都道府県庁がん対策担当者では65%、医療提供者では68%でした。

「患者アドボカシーの成果」については、国会議員・都道府県議会議員では「成果を生んでいる」「どちらかといえば成果を生んでいる」と回答した人が合わせて59%、都道府県庁がん対策担当者では67%、医療提供者では61%となりました。

患者・家族からの回答同様、患者アドボカシーの重要性については9割程度と高く示された一方で、患者アドボカシーの高まりや成果については6割程度にとどまり、3割程度のギャップ（差）があります。まだ高まる余地があるといえるかも知れません。

図3 患者アドボカシーに対する他の立場からの意識

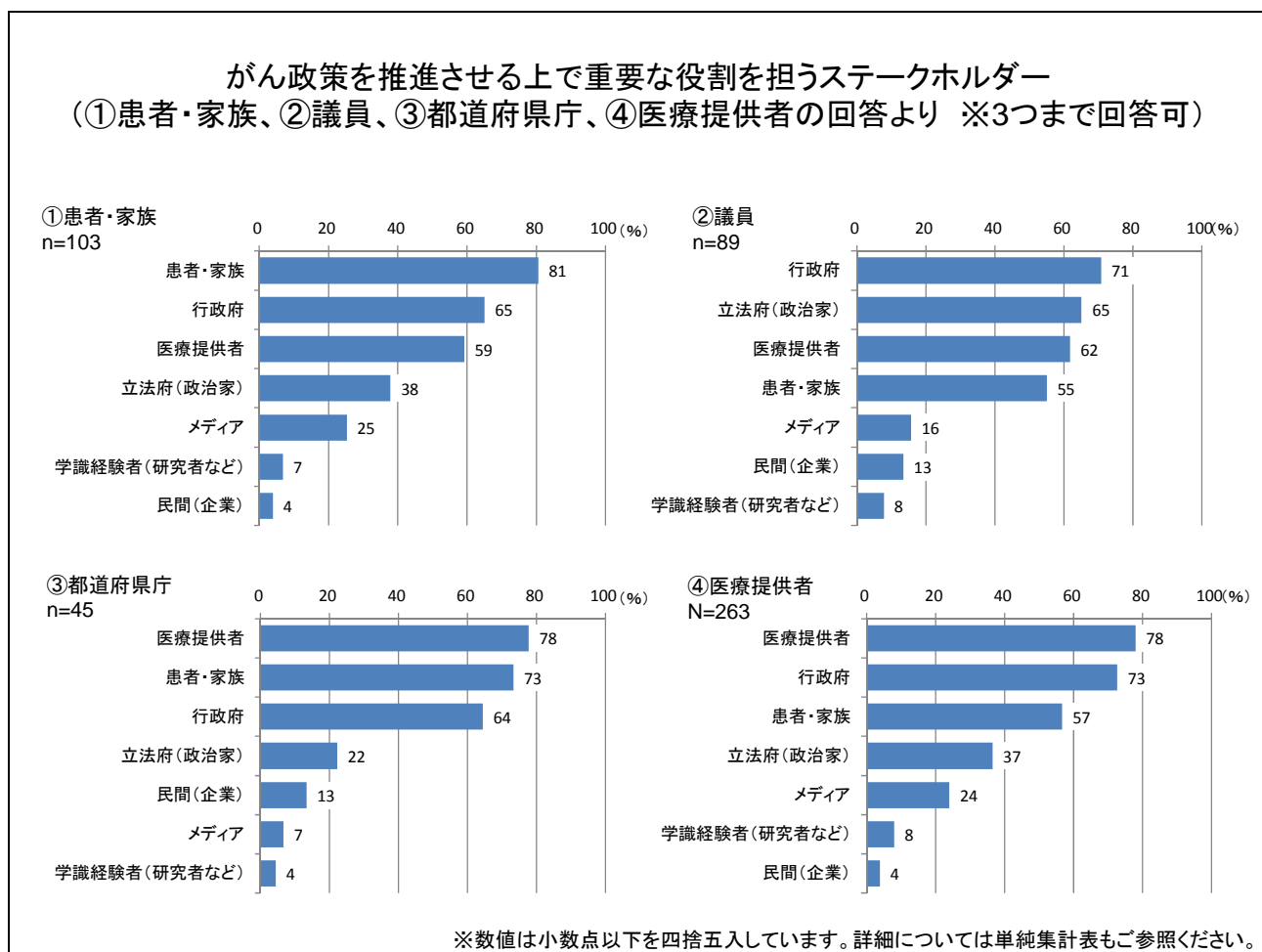


がん政策で重要な役割を担う患者・家族

がん政策を推進する上で、どのステークホルダーに期待が寄せられているのでしょうか。アンケートでは「がん政策で重要な役割を担うステークホルダー」を聞いています。その結果、患者・家族では、「患者・家族」(81%)が最も多く、その後に「行政府」(65%)、「医療提供者」(59%)の順となりました。国会議員・都道府県議会議員では「行政府」(71%)、「立法府」(65%)、「医療提供者」(62%)でした。行政府では「医療提供者」(78%)、「患者・家族」(73%)、「行政府」(64%)という結果になり、医療提供者では、自らの「医療提供者」(78%)を筆頭に、「行政府」(73%)、「患者・家族」(57%)が続いています(図4)。

患者・家族の回答では、「医療提供者」、「立法府」と回答した人の割合が比較的低くなっています。一方で、国会議員・都道府県議会議員からの回答や医療提供者からの回答では、「患者・家族」と回答した人の割合が低くなっています。このことから、患者・家族と議員、患者・家族と医療提供者のコミュニケーションをより一層高めることも必要と考えられます。

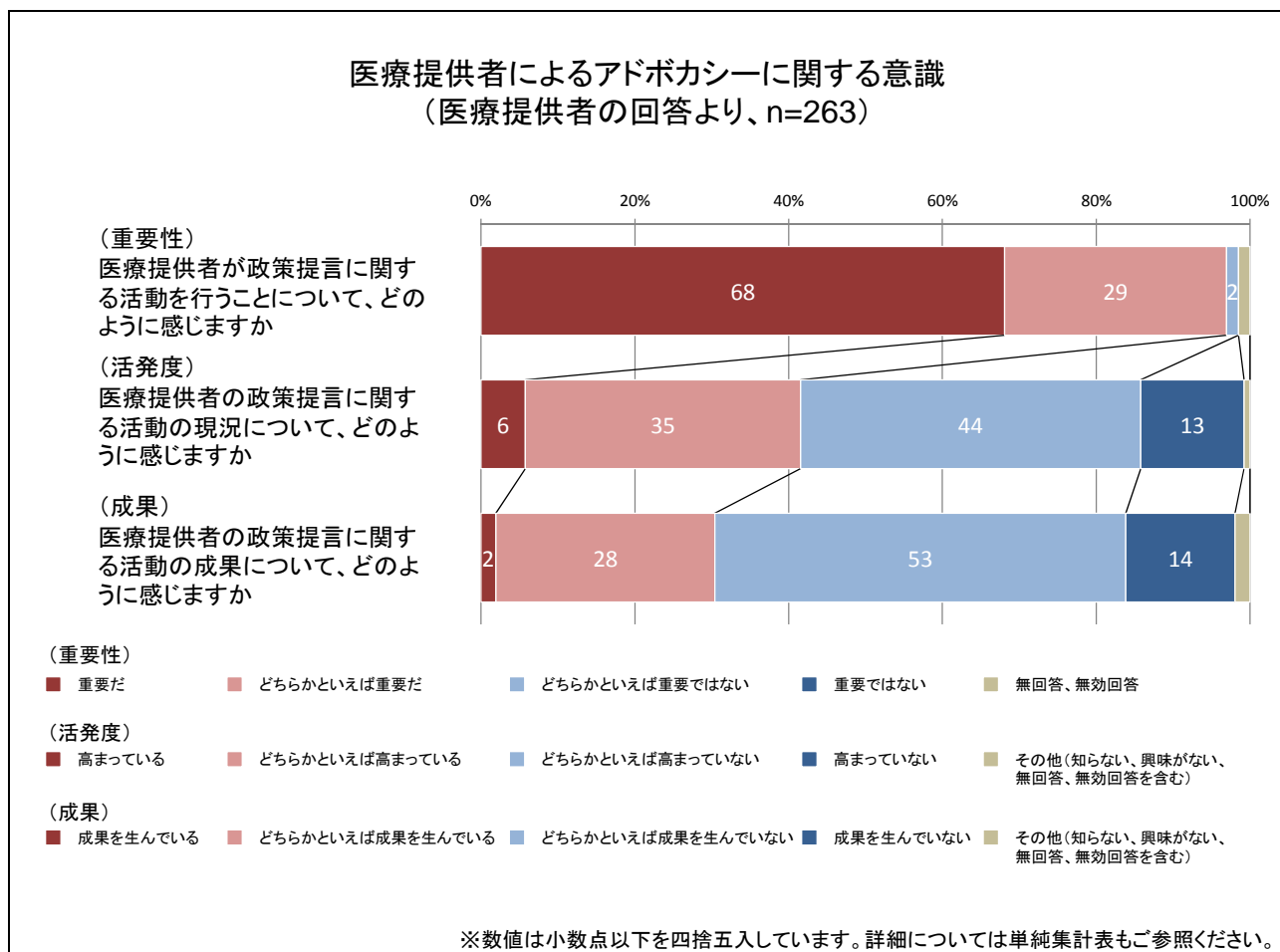
図4 がん政策を推進させる上で重要な役割を担うステークホルダー



がん政策における医療提供者の活動と議員の活動の実際

アドボカシーとは提言活動のことですから、患者・家族以外の立場からも行われます。医療提供者を対象に「医療提供者によるアドボカシーの重要性」について聞いたところ、「重要だ」あるいは「どちらかといえば重要だ」と回答したのは合わせて97%でした（図5）。「医療提供者によるアドボカシーの活発度」については、「高まっている」「どちらかといえば高まっている」と回答した人が41%。「医療提供者によるアドボカシーの成果」については、「成果を生んでいる」「どちらかといえば成果を生んでいる」と回答した人が30%でした。重要性に比べて、活発度や成果についてはまだ格段に低い結果となっています。

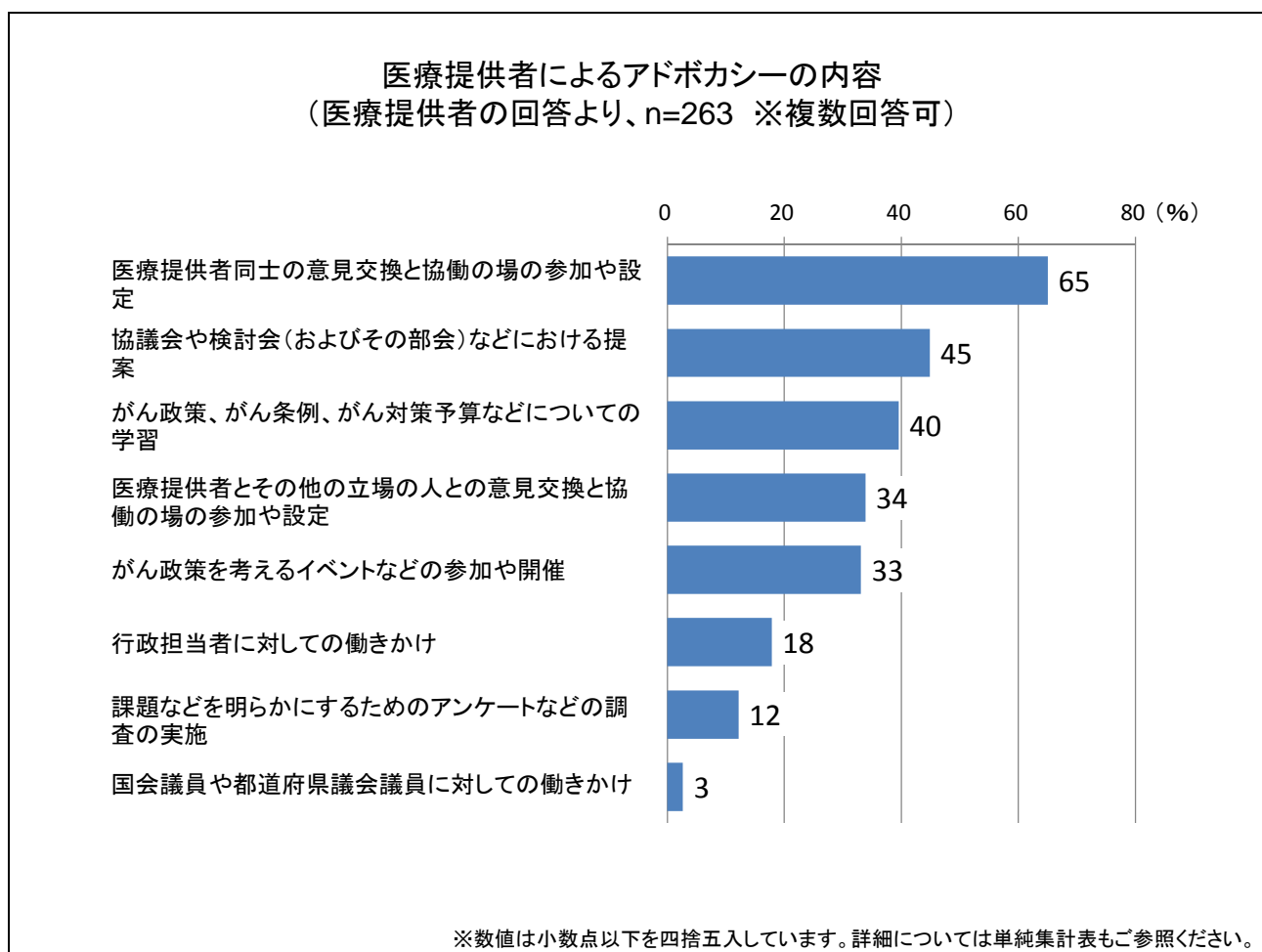
図5 医療提供者によるアドボカシーに関する意識



実際の医療提供者によるアドボカシー活動の内容としては「医療提供者同士の意見交換と協働の場の参加や設定」(65%)、「協議会や検討会(およびその部会)などにおける提案」(45%)、「がん政策、がん条例、がん対策予算などについての学習」(40%)などが挙がっています(図6)。

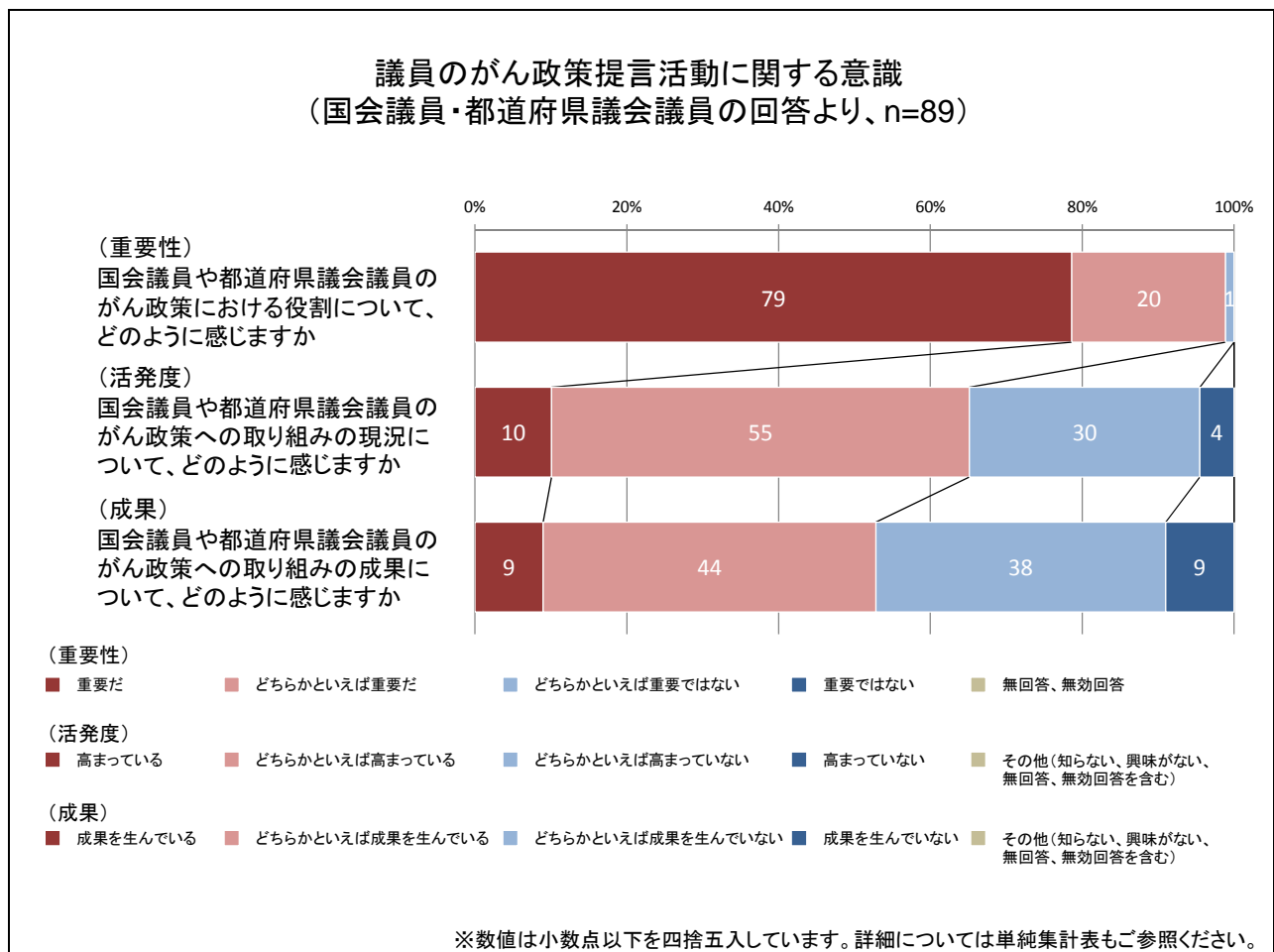
活発度や成果を高めていくには、今回のアンケート結果で活発度や成果が比較的高い患者アドボカシー活動と連携していくことや、協働活動を進めることが一手かもしれません。

図6 医療提供者アドボカシーの内容



国会議員・都道府県議会議員には、がん政策への取り組みについて質問をしています。「国会議員や都道府県議会議員のがん政策提言活動の重要性」について聞いたところ、「重要だ」あるいは「どちらかといえば重要だ」と回答したのは合わせて99%でした（図7）。「国会議員や都道府県議会議員のがん政策提言活動の活発度」については、「高まっている」「どちらかといえば高まっている」と回答した人が65%、「国会議員や都道府県議会議員のがん政策提言活動の成果」については、「成果を生んでいる」「どちらかといえば成果を生んでいる」と回答した人が53%でした。やはり、重要性の認識に比べ活発度や成果についての認識が低くなっています。

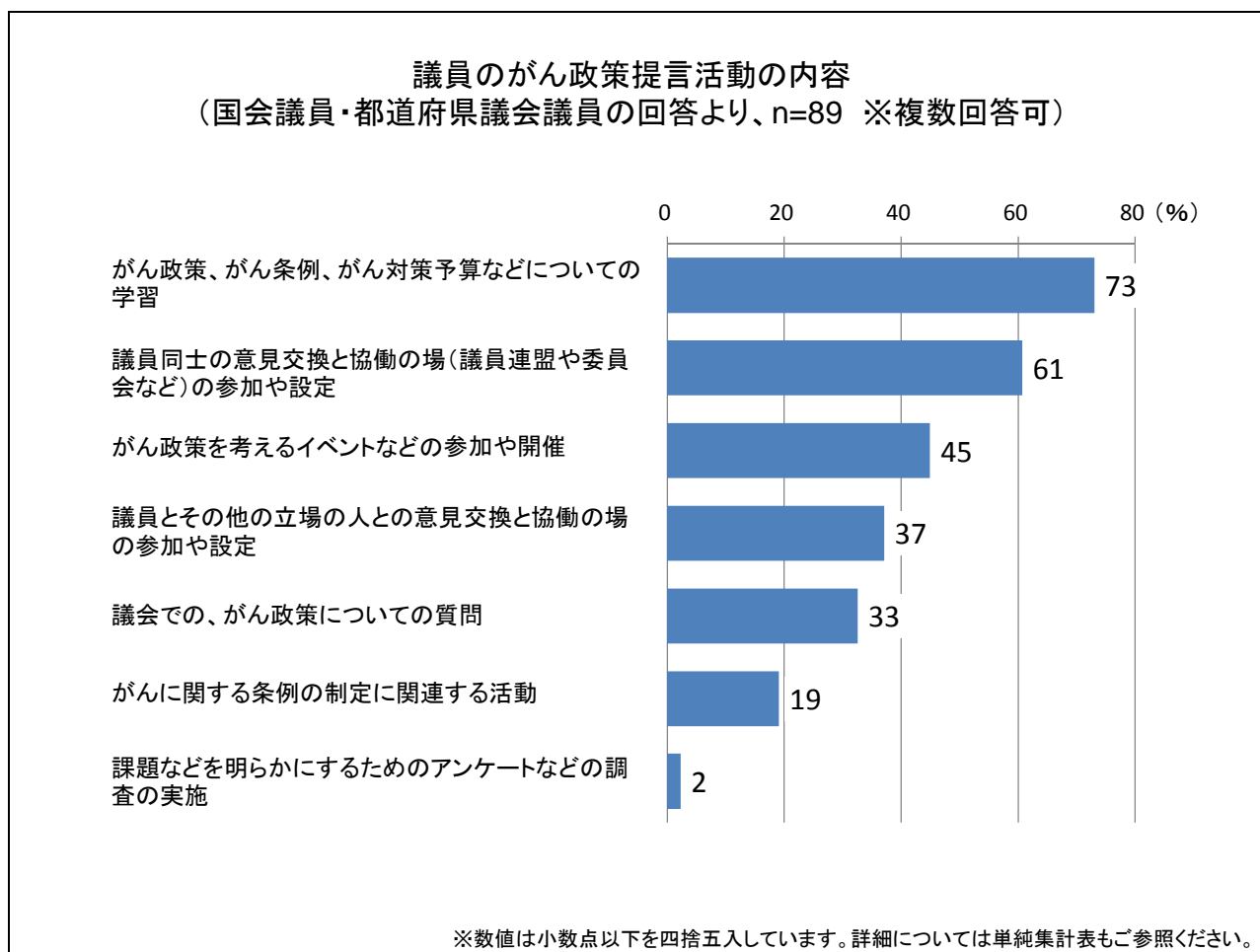
図7 議員のがん政策提言活動に関する意識



実際の活動としては「がん政策、がん条例、がん対策予算などについての学習」(73%)、「議員同士の意見交換と協働の場(議員連盟や委員会など)の参加や設定」(61%)、「がん政策を考えるイベントなどの参加や開催」(45%)などが挙がっています(図8)。

議員についても、活発度や成果を高める一つの手段として、患者アドボカシー活動との連携が考えられます。

図8 議員のがん政策提言活動の内容



患者アドボカシー、他ステークホルダーとの協働が必要

アンケート結果では、がん政策における患者アドボカシーの重要性について高い認識が示されました。この認識は、患者・家族ご自身においても、他のステークホルダーにおいても同様に高いものでした。患者アドボカシーの重要性に比べると、その活性度や成果についての認識は低く、ギャップがあることが分かりました。今後は、患者アドボカシーが高まり、かつ、成果がさらに表れることが求められると考えられます。

がん政策において重要な役割を担うステークホルダーについての意識は、患者・家族の回答では「医療提供者」と「議員」の回答が少なく、医療提供者と議員の回答では「患者・家族」の回答が少ない傾向がありました。また、患者アドボカシーの内容、医療提供者アドボカシーの内容、議員の政策提言活動の内容を見ると、仲間（関係者）同士の協働などの活動を行っている人は多いですが、他のステークホルダーとの協働や働きかけに関する活動を行っている人は少ない結果となっています。

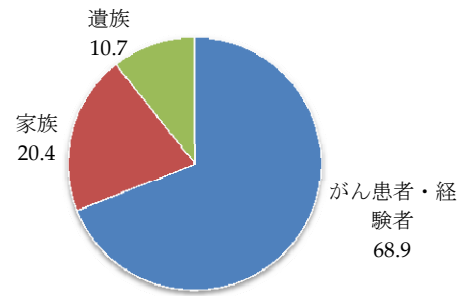
それらの結果から、患者アドボカシーの重要性と、活発度や成果の間にあるギャップを埋めるために、患者・家族からの議員や医療提供者への働きかけや協働活動が重要となることが考えられます。また、医療提供者によるアドボカシーや議員の政策提言活動についても、患者・家族と連携した協働活動は、重要性と活発度・成果のギャップを埋める手段となりうるでしょう。

がん政策を考える際、患者さんやご家族が重要なステークホルダーであるということは、共通認識になりつつあります。今後は、活動が成果につながるために、さまざまなステークホルダーが協働することについての重要性が高まるともいえそうです。

「がんアドボカシー・アンケート」単純集計表（患者・家族）

(1) アンケートの記入者

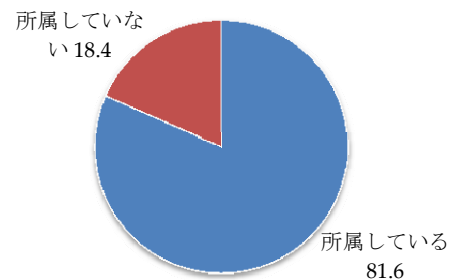
	回答人数 (人)	割合 (%)
がん患者・経験者	71	68.9
家族	21	20.4
遺族	11	10.7
無回答	0	0.0
無効回答	0	0.0
計	103	100



単位(%), n=103

(2) がんに関連する患者団体や家族会への所属

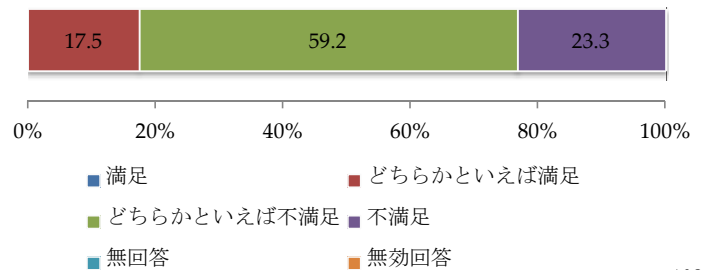
	回答人数 (人)	割合 (%)
所属している	84	81.6
所属していない	19	18.4
無回答	0	0.0
無効回答	0	0.0
計	103	100



単位(%), n=103

(3) 現在おこなわれている国や都道府県等のがん政策にどの程度満足していますか。（1つ回答）

	回答人数 (人)	割合 (%)
満足	0	0.0
どちらかといえば満足	18	17.5
どちらかといえば不満足	61	59.2
不満足	24	23.3
無回答	0	0.0
無効回答	0	0.0
計	103	100



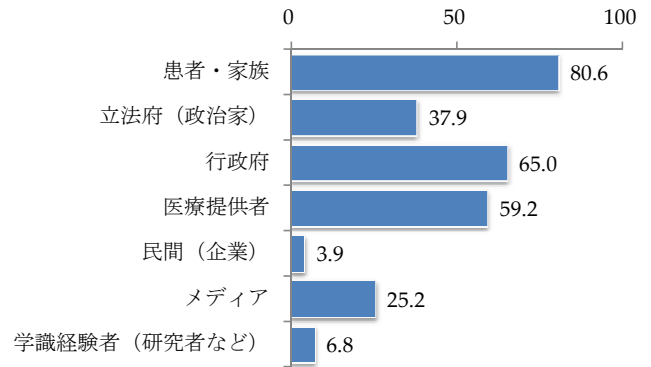
n=103

注) 四捨五入のため、割合 (%) の合計値があわない場合がございます

「がんアドボカシー・アンケート」単純集計表（患者・家族）

(4) 国や都道府県等のがん政策を推進させるうえで、誰の役割が重要だと思いますか。（3つまで回答可）

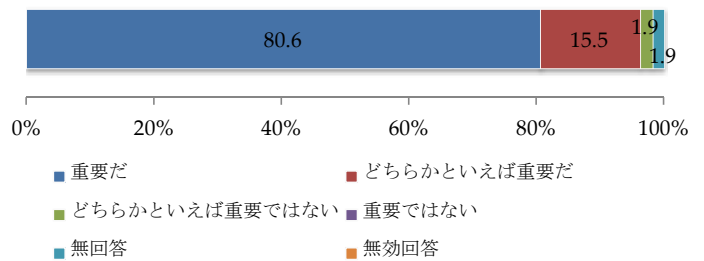
	回答人数 (人)	割合 (%)
患者・家族	83	80.6
立法府（政治家）	39	37.9
行政府	67	65.0
医療提供者	61	59.2
民間（企業）	4	3.9
メディア	26	25.2
学識経験者（研究者など）	7	6.8
ひとつも回答なし	1	1.0



単位(%), n=103

(5) 患者さんやご家族が政策提言に関する活動を行うことについて、どのように感じますか。（1つ回答）

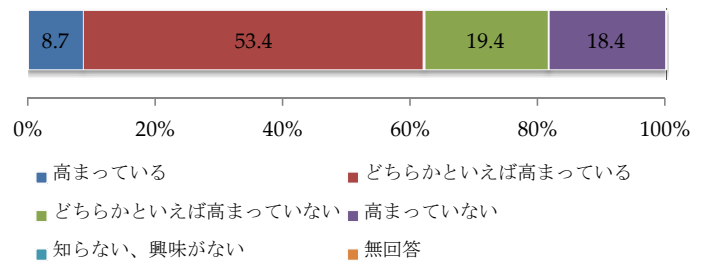
	回答人数 (人)	割合 (%)
重要だ	83	80.6
どちらかといえば重要だ	16	15.5
どちらかといえば重要ではない	2	1.9
重要ではない	0	0.0
無回答	2	1.9
無効回答	0	0.0
計	103	100



n=103

(6) 患者さんやご家族の政策提言に関する活動の現況について、どのように感じますか。（1つ回答）

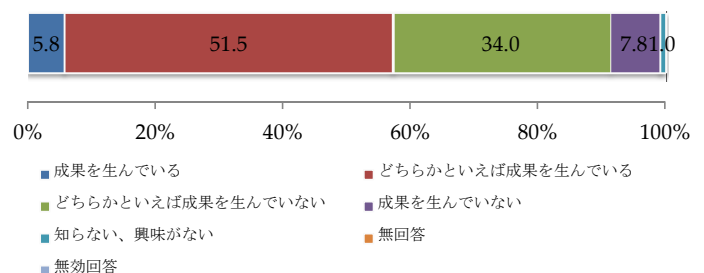
	回答人数 (人)	割合 (%)
高まっている	9	8.7
どちらかといえば高まっている	55	53.4
どちらかといえば高まっていない	20	19.4
高まっていない	19	18.4
知らない、興味がない	0	0.0
無回答	0	0.0
無効回答	0	0.0
計	103	100



n=103

(7) 患者さんやご家族の政策提言に関する活動の成果について、どのように感じますか。（1つ回答）

	回答人数 (人)	割合 (%)
成果を生んでいる	6	5.8
どちらかといえば成果を生んでいる	53	51.5
どちらかといえば成果を生んでいない	35	34.0
成果を生んでいない	8	7.8
知らない、興味がない	1	1.0
無回答	0	0.0
無効回答	0	0.0
計	103	100



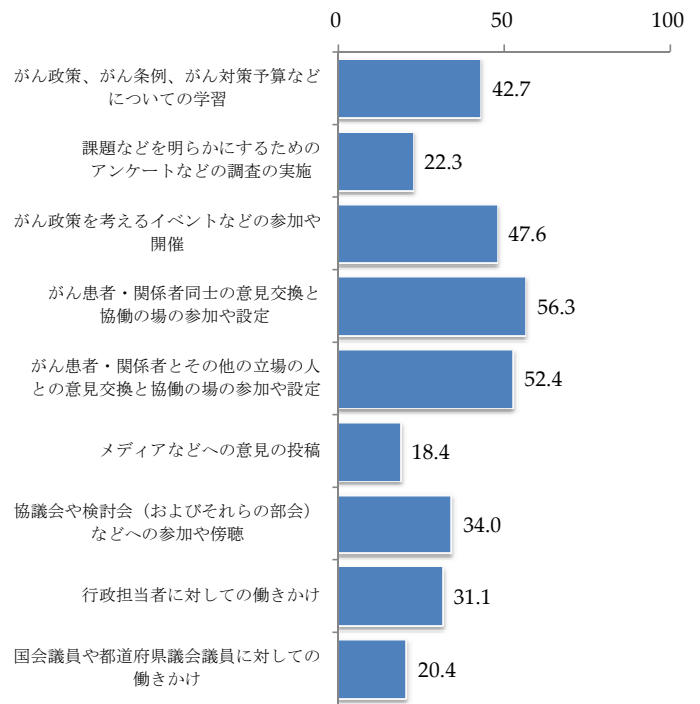
n=103

注) 四捨五入のため、割合 (%) の合計値があわない場合がございます

「がんアドボカシー・アンケート」単純集計表（患者・家族）

(8) 国や都道府県等のがん政策について、選択肢のうちあなたが実際に行っている政策提言に関する活動をお教えてください。（複数回答可）

	回答人数 (人)	割合 (%)
がん政策、がん条例、がん対策予算などについての学習	44	42.7
課題などを明らかにするためのアンケートなどの調査の実施	23	22.3
がん政策を考えるイベントなどの参加や開催	49	47.6
がん患者・関係者同士の意見交換と協働の場の参加や設定	58	56.3
がん患者・関係者とその他の立場の人との意見交換と協働の場の参加や設定	54	52.4
メディアなどへの意見の投稿	19	18.4
協議会や検討会（およびそれらの部会）などへの参加や傍聴	35	34.0
行政担当者に対しての働きかけ	32	31.1
国会議員や都道府県議会議員に対しての働きかけ	21	20.4
ひとつも回答なし	6	5.8



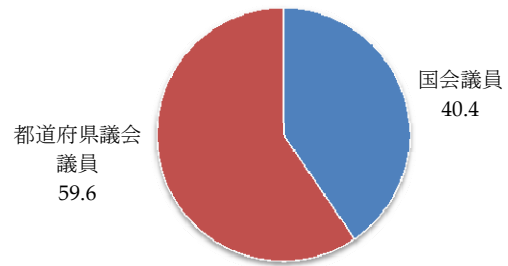
単位(%), n=103

注) 四捨五入のため、割合 (%) の合計値があわない場合がございます

「がんアドボカシー・アンケート」単純集計表（国会議員・都道府県議会議員）

(1) アンケートの記入者

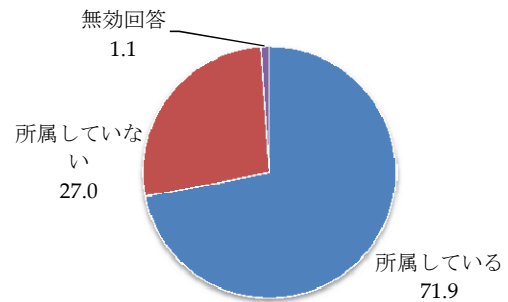
	回答人数 (人)	割合 (%)
国会議員	36	40.4
都道府県議会議員	53	59.6
無回答	0	0.0
無効回答	0	0.0
計	89	100



単位(%), n=89

(2) 医療や健康に関する何らかの委員会への所属

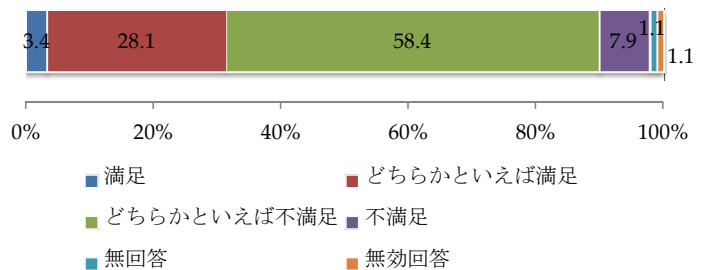
	回答人数 (人)	割合 (%)
所属している	64	71.9
所属していない	24	27.0
無回答	0	0.0
無効回答	1	1.1
計	89	100



単位(%), n=89

(3) 現在おこなわれている国や都道府県等のがん政策にどの程度満足していますか。（1つ回答）

	回答人数 (人)	割合 (%)
満足	3	3.4
どちらかといえば満足	25	28.1
どちらかといえば不満足	52	58.4
不満足	7	7.9
無回答	1	1.1
無効回答	1	1.1
計	89	100



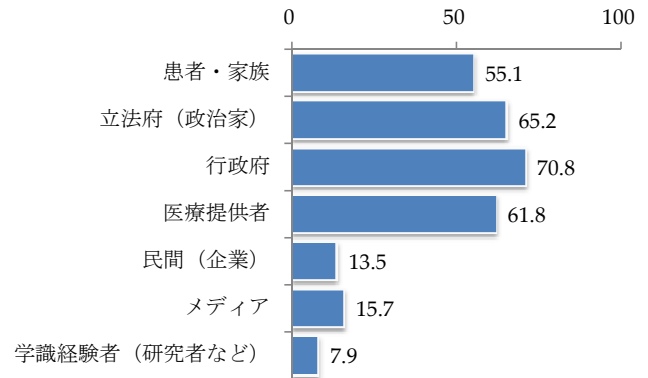
n=89

注) 四捨五入のため、割合 (%) の合計値があわない場合がございます

「がんアドボカシー・アンケート」単純集計表（国会議員・都道府県議会議員）

(4) 国や都道府県等のがん政策を推進させるうえで、誰の役割が重要だと思いますか。（3つまで回答可）

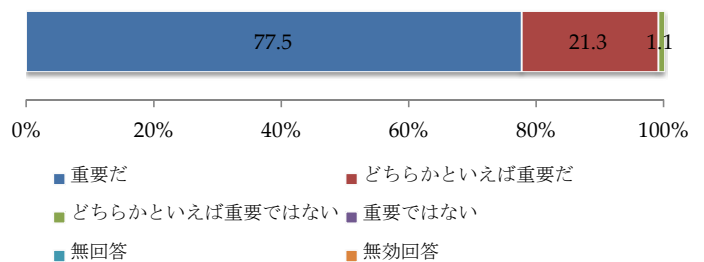
	回答人数 (人)	割合 (%)
患者・家族	49	55.1
立法府（政治家）	58	65.2
行政府	63	70.8
医療提供者	55	61.8
民間（企業）	12	13.5
メディア	14	15.7
学識経験者（研究者など）	7	7.9
ひとつも回答なし	0	0.0



単位(%), n=89

(5) 患者さんやご家族が政策提言に関する活動を行うことについて、どのように感じますか。（1つ回答）

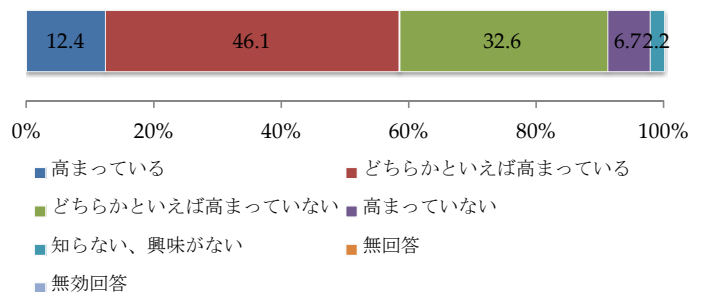
	回答人数 (人)	割合 (%)
重要だ	69	77.5
どちらかといえば重要だ	19	21.3
どちらかといえば重要ではない	1	1.1
重要ではない	0	0.0
無回答	0	0.0
無効回答	0	0.0
計	89	100



n=89

(6) 患者さんやご家族の政策提言に関する活動の現況について、どのように感じますか。（1つ回答）

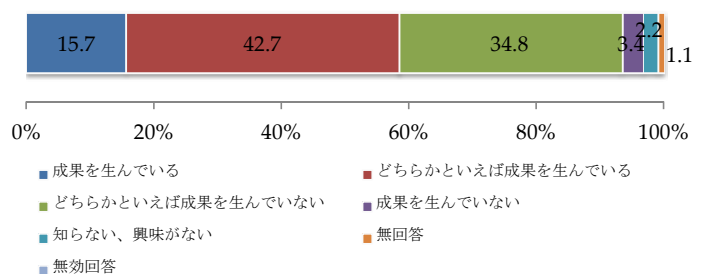
	回答人数 (人)	割合 (%)
高まっている	11	12.4
どちらかといえば高まっている	41	46.1
どちらかといえば高まっていない	29	32.6
高まっていない	6	6.7
知らない、興味がない	2	2.2
無回答	0	0.0
無効回答	0	0.0
計	89	100



n=89

(7) 患者さんやご家族の政策提言に関する活動の成果について、どのように感じますか。（1つ回答）

	回答人数 (人)	割合 (%)
成果を生んでいる	14	15.7
どちらかといえば成果を生んでいる	38	42.7
どちらかといえば成果を生んでいない	31	34.8
成果を生んでいない	3	3.4
知らない、興味がない	2	2.2
無回答	1	1.1
無効回答	0	0.0
計	89	100



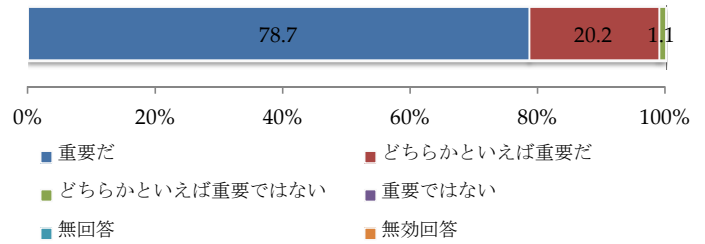
n=89

注) 四捨五入のため、割合 (%) の合計値があわない場合がございます

「がんアドボカシー・アンケート」単純集計表（国会議員・都道府県議会議員）

(8) 国会議員や都道府県議会議員のがん政策における役割について、どのように感じますか。（1つ回答）

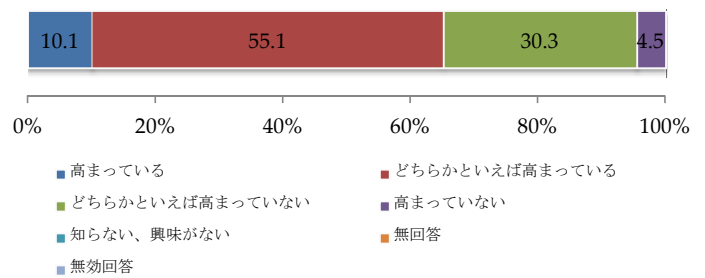
	回答人数 (人)	割合 (%)
重要だ	70	78.7
どちらかといえば重要だ	18	20.2
どちらかといえば重要ではない	1	1.1
重要ではない	0	0.0
無回答	0	0.0
無効回答	0	0.0
計	89	100



n=89

(9) 国会議員や都道府県議会議員のがん政策への取り組みの現況について、どのように感じますか。（1つ回答）

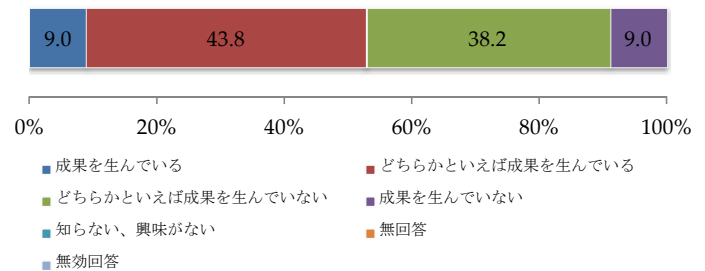
	回答人数 (人)	割合 (%)
高まっている	9	10.1
どちらかといえば高まっている	49	55.1
どちらかといえば高まっていない	27	30.3
高まっていない	4	4.5
知らない、興味がない	0	0.0
無回答	0	0.0
無効回答	0	0.0
計	89	100



n=89

(10) 国会議員や都道府県議会議員のがん政策への取り組みの成果について、どのように感じますか。（1つ回答）

	回答人数 (人)	割合 (%)
成果を生んでいる	8	9.0
どちらかといえば成果を生んでいる	39	43.8
どちらかといえば成果を生んでいない	34	38.2
成果を生んでいない	8	9.0
知らない、興味がない	0	0.0
無回答	0	0.0
無効回答	0	0.0
計	89	100



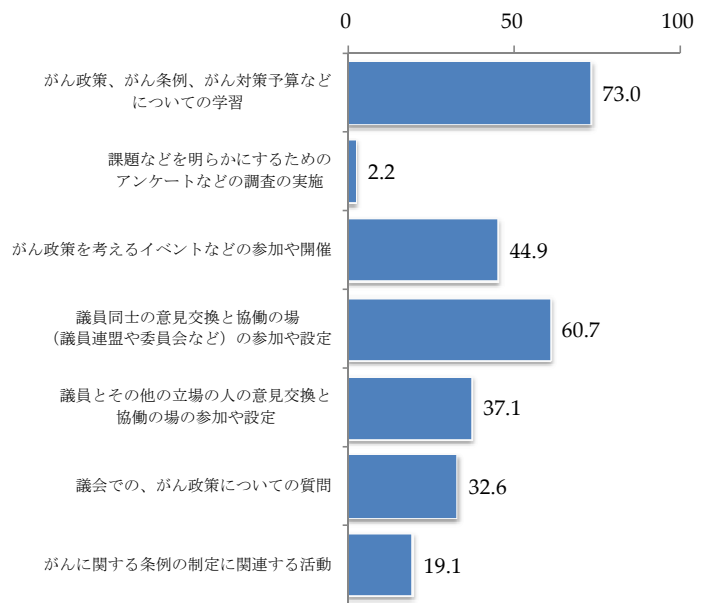
n=89

注) 四捨五入のため、割合 (%) の合計値があわない場合がございます

「がんアドボカシー・アンケート」単純集計表（国会議員・都道府県議会議員）

(11) 国や都道府県等のがん政策について、選択肢のうちあなたが実際に行っている活動をお教えてください。（複数回答可）

	回答人数 (人)	割合 (%)
がん政策、がん条例、がん対策予算などについての学習	65	73.0
課題などを明らかにするためのアンケートなどの調査の実施	2	2.2
がん政策を考えるイベントなどの参加や開催	40	44.9
議員同士の意見交換と協働の場（議員連盟や委員会など）の参加や設定	54	60.7
議員とその他の立場の人の意見交換と協働の場の参加や設定	33	37.1
議会での、がん政策についての質問	29	32.6
がんに関する条例の制定に関連する活動	17	19.1
ひとつも回答なし	1	1.1



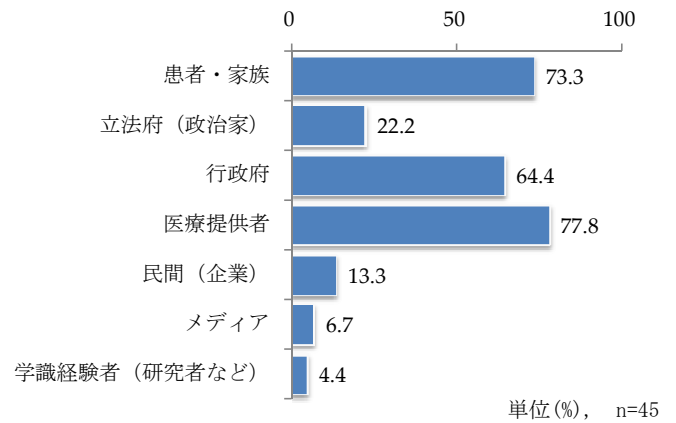
単位(%), n=89

注) 四捨五入のため、割合 (%) の合計値があわない場合がございます

「がんアドボカシー・アンケート」単純集計表（都道府県庁がん対策担当者）

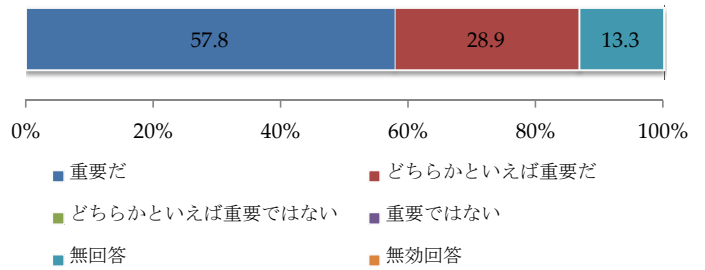
(1) 国や都道府県等のがん政策を推進させるうえで、誰の役割が重要だと思いますか。（3つまで回答可）

	回答人数 (人)	割合 (%)
患者・家族	33	73.3
立法府（政治家）	10	22.2
行政府	29	64.4
医療提供者	35	77.8
民間（企業）	6	13.3
メディア	3	6.7
学識経験者（研究者など）	2	4.4
ひとつも回答なし	5	11.1



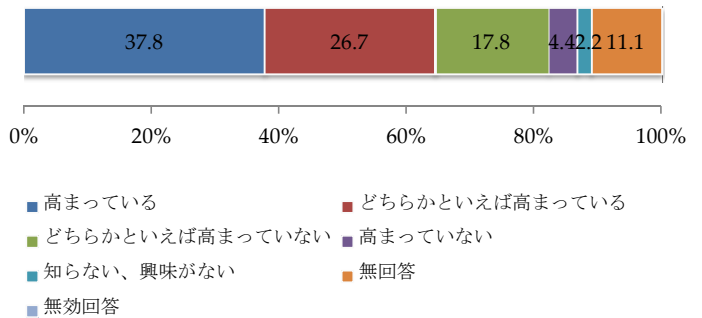
(2) 患者さんやご家族が政策提言に関する活動を行うことについて、どのように感じますか。（1つ回答）

	回答人数 (人)	割合 (%)
重要だ	26	57.8
どちらかといえば重要だ	13	28.9
どちらかといえば重要ではない	0	0.0
重要ではない	0	0.0
無回答	6	13.3
無効回答	0	0.0
計	45	100



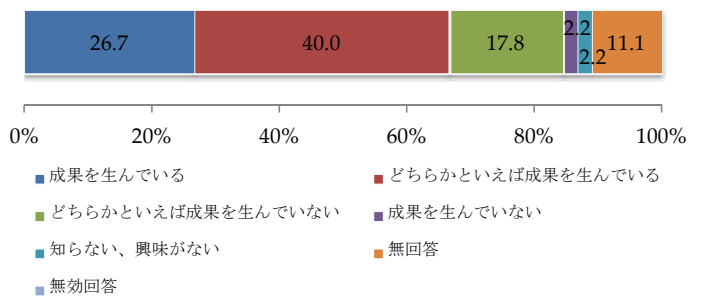
(3) 患者さんやご家族の政策提言に関する活動の現況について、どのように感じますか。（1つ回答）

	回答人数 (人)	割合 (%)
高まっている	17	37.8
どちらかといえば高まっている	12	26.7
どちらかといえば高まっていない	8	17.8
高まっていない	2	4.4
知らない、興味がない	1	2.2
無回答	5	11.1
無効回答	0	0.0
計	45	100



(4) 患者さんやご家族の政策提言に関する活動の成果について、どのように感じますか。（1つ回答）

	回答人数 (人)	割合 (%)
成果を生んでいる	12	26.7
どちらかといえば成果を生んでいる	18	40.0
どちらかといえば成果を生んでいない	8	17.8
成果を生んでいない	1	2.2
知らない、興味がない	1	2.2
無回答	5	11.1
無効回答	0	0.0
計	45	100

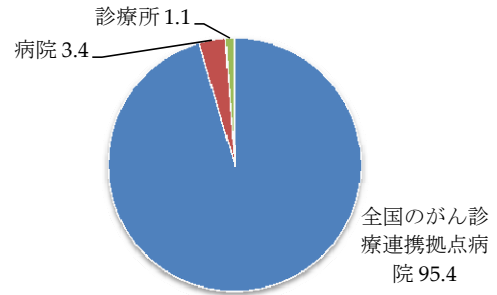


注) 四捨五入のため、割合 (%) の合計値があわない場合がございます

「がんアドボカシー・アンケート」単純集計表（医療提供者）

(1) アンケートの記入者

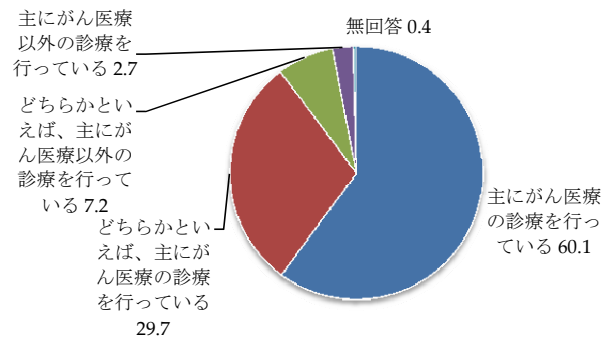
	回答人数 (人)	割合 (%)
全国のがん診療連携拠点病院	251	95.4
病院	9	3.4
診療所	3	1.1
無回答	0	0.0
無効回答	0	0.0
計	263	100



単位(%), n=263

(2) がん医療とのかかわり

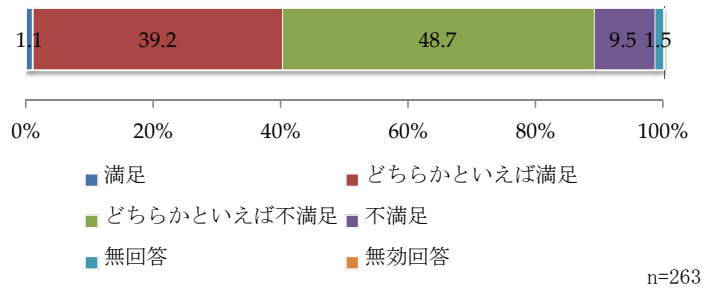
	回答人数 (人)	割合 (%)
主にごん医療の診療を行っている	158	60.1
どちらかといえば、主にごん医療の診療を行っている	78	29.7
どちらかといえば、主にごん医療以外の診療を行っている	19	7.2
主にごん医療以外の診療を行っている	7	2.7
無回答	1	0.4
無効回答	0	0.0
計	263	100



単位(%), n=263

(3) 現在おこなわれている国や都道府県等のがん政策にどの程度満足していますか。（1つ回答）

	回答人数 (人)	割合 (%)
満足	3	1.1
どちらかといえば満足	103	39.2
どちらかといえば不満足	128	48.7
不満足	25	9.5
無回答	4	1.5
無効回答	0	0.0
計	263	100



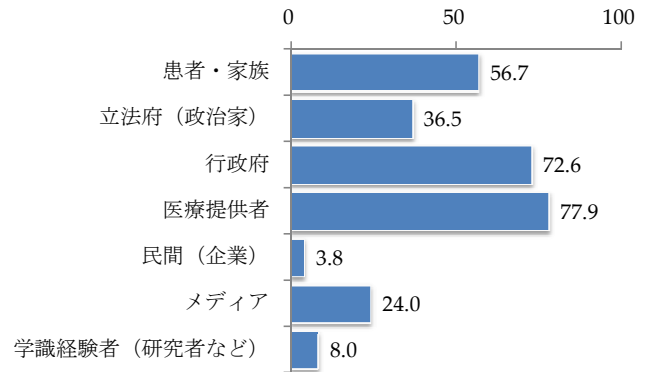
n=263

注) 四捨五入のため、割合 (%) の合計値があわない場合がございます

「がんアドボカシー・アンケート」単純集計表（医療提供者）

(4) 国や都道府県等のがん政策を推進させるうえで、誰の役割が重要だと思いますか。（3つまで回答可）

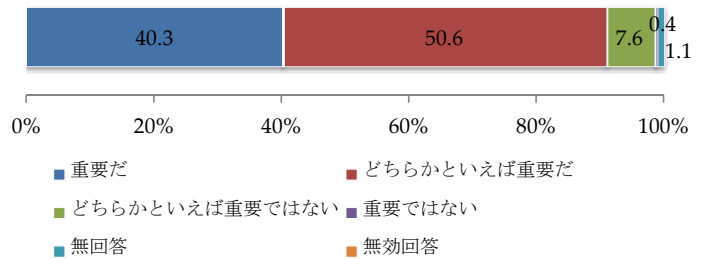
	回答人数 (人)	割合 (%)
患者・家族	149	56.7
立法府（政治家）	96	36.5
行政府	191	72.6
医療提供者	205	77.9
民間（企業）	10	3.8
メディア	63	24.0
学識経験者（研究者など）	21	8.0
ひとつも回答なし	1	0.4



単位(%), n=263

(5) 患者さんやご家族が政策提言に関する活動を行うことについて、どのように感じますか。（1つ回答）

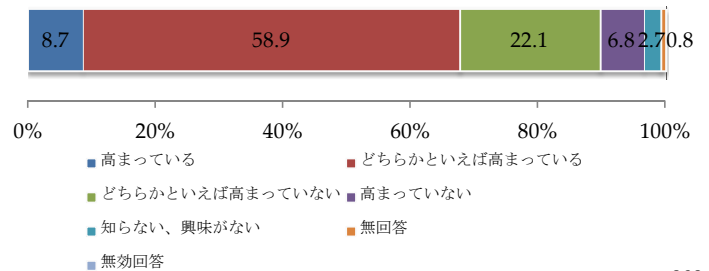
	回答人数 (人)	割合 (%)
重要だ	106	40.3
どちらかといえば重要だ	133	50.6
どちらかといえば重要ではない	20	7.6
重要ではない	1	0.4
無回答	3	1.1
無効回答	0	0.0
計	263	100



n=263

(6) 患者さんやご家族の政策提言に関する活動の現況について、どのように感じますか。（1つ回答）

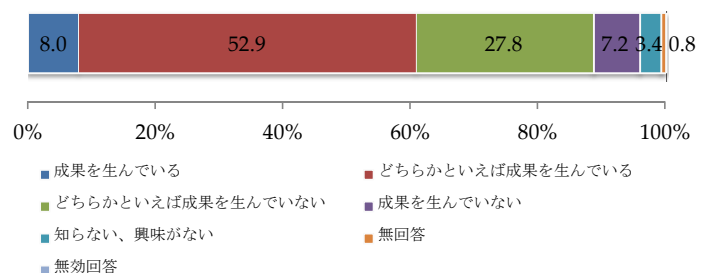
	回答人数 (人)	割合 (%)
高まっている	23	8.7
どちらかといえば高まっている	155	58.9
どちらかといえば高まっていない	58	22.1
高まっていない	18	6.8
知らない、興味がない	7	2.7
無回答	2	0.8
無効回答	0	0.0
計	263	100



n=263

(7) 患者さんやご家族の政策提言に関する活動の成果について、どのように感じますか。（1つ回答）

	回答人数 (人)	割合 (%)
成果を生んでいる	21	8.0
どちらかといえば成果を生んでいる	139	52.9
どちらかといえば成果を生んでいない	73	27.8
成果を生んでいない	19	7.2
知らない、興味がない	9	3.4
無回答	2	0.8
無効回答	0	0.0
計	263	100



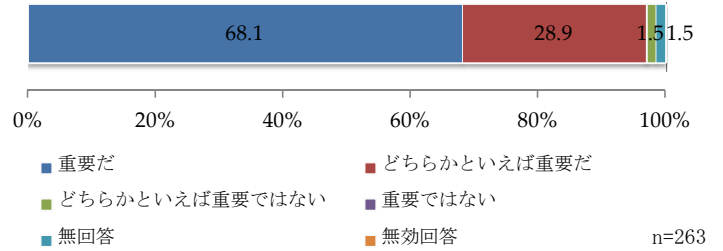
n=263

注) 四捨五入のため、割合 (%) の合計値があわない場合がございます

「がんアドボカシー・アンケート」単純集計表（医療提供者）

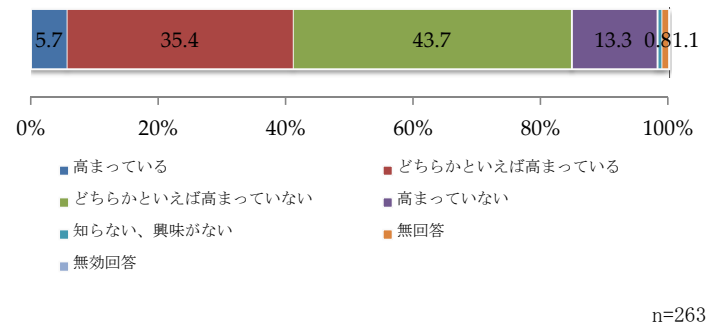
(8) 医療提供者が政策提言に関する活動を行うことについて、どのように感じますか。（1つ回答）

	回答人数 (人)	割合 (%)
重要だ	179	68.1
どちらかといえば重要だ	76	28.9
どちらかといえば重要ではない	4	1.5
重要ではない	0	0.0
無回答	4	1.5
無効回答	0	0.0
計	263	100



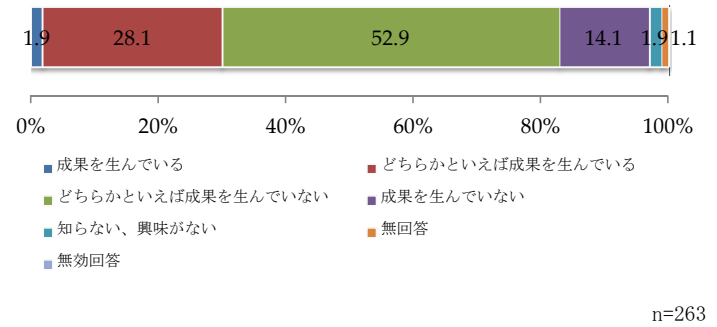
(9) 医療提供者の政策提言に関する活動の現況について、どのように感じますか。（1つ回答）

	回答人数 (人)	割合 (%)
高まっている	15	5.7
どちらかといえば高まっている	93	35.4
どちらかといえば高まっていない	115	43.7
高まっていない	35	13.3
知らない、興味がない	2	0.8
無回答	3	1.1
無効回答	0	0.0
計	263	100



(10) 医療提供者の政策提言に関する活動の成果について、どのように感じますか。（1つ回答）

	回答人数 (人)	割合 (%)
成果を生んでいる	5	1.9
どちらかといえば成果を生んでいる	74	28.1
どちらかといえば成果を生んでいない	139	52.9
成果を生んでいない	37	14.1
知らない、興味がない	5	1.9
無回答	3	1.1
無効回答	0	0.0
計	263	100

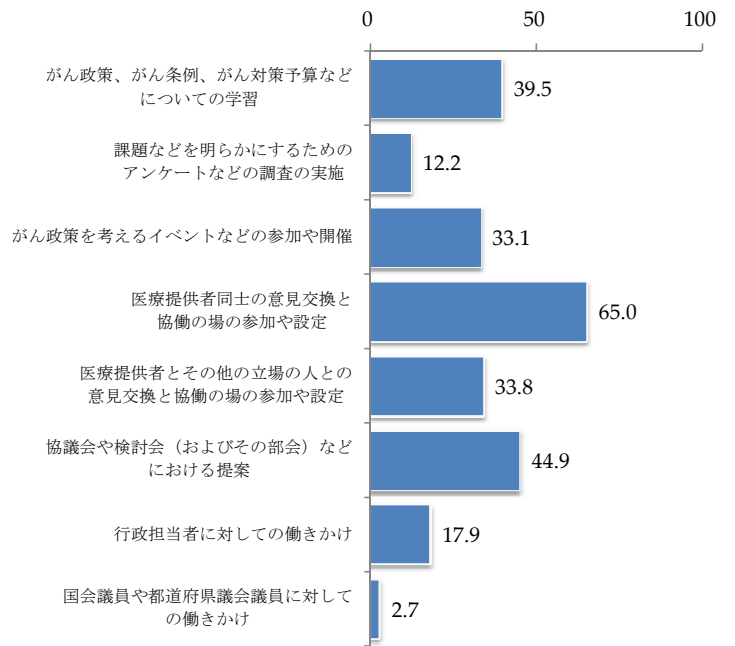


注) 四捨五入のため、割合 (%) の合計値があわない場合がございます

「がんアドボカシー・アンケート」単純集計表（医療提供者）

(11) 国や都道府県等のがん政策について、選択肢のうちあなたが実際に行っている活動をお教えてください。（複数回答可）

	回答人数 (人)	割合 (%)
がん政策、がん条例、がん対策予算などについての学習	104	39.5
課題などを明らかにするためのアンケートなどの調査の実施	32	12.2
がん政策を考えるイベントなどの参加や開催	87	33.1
医療提供者同士の意見交換と協働の場の参加や設定	171	65.0
医療提供者とその他の立場の人との意見交換と協働の場の参加や設定	89	33.8
協議会や検討会（およびその部会）などにおける提案	118	44.9
行政担当者に対しての働きかけ	47	17.9
国会議員や都道府県議会議員に対しての働きかけ	7	2.7
ひとつも回答なし	21	8.0



単位(%), n=263

注) 四捨五入のため、割合 (%) の合計値があわない場合がございます

がんアドボカシー・アンケート 概要

【目的】

がん対策に関係のあるさまざまな立場の方の、がんアドボカシーの意識や実際の活動を明らかにする。

【対象者】

下記のがん対策の関係者

①がん患者・家族

全国のがん患者団体の代表者、当機構主催のメーリングリスト参加者など

②国会議員・都道府県議会議員

全国国会議員、医療や健康に関する委員会に所属する都道府県議会議員

③47都道府県庁がん対策担当者

④医療提供者

全国388のがん診療連携拠点病院の医療提供者

【方法】

インターネット調査（一部、FAXによる回答）

【期間】

2011年9月9日～9月30日

【有効回答数】

患者・家族	103件
国会議員・都道府県議会議員	89件
都道府県庁がん対策担当者	45件
医療提供者	263件

がんアドボカシー・アンケート 2011

2011年12月21日

発行 特定非営利活動法人 日本医療政策機構
市民医療協議会 がん政策情報センター

発行人 埴岡 健一

企画・編集 山口 綾香

編集・構成・装丁 がん政策情報センター第1期プロジェクトスタッフ

がん政策情報センター

<http://ganseisaku.net/>



市民医療協議会
Commission on Citizens and Health

日本医療政策機構
Health and Global Policy Institute